

# 国・地方連携会議ネットワークを活用した男女共同参画推進事業

(報告)

団体名：特定非営利活動法人日本 BPW 連合会

## 【開催趣旨・目的】

WLNのテーマである「女性による新たな経済活動の創造—人・自然・文化を活かす—」にあわせ、「農村からの発信」として、東北を中心に活躍する女性やそれを応援する方による、事例報告及びパネルディスカッションを行い、農村女性の起業活動を理解してもらい、地域の食のネットワークづくりから、地産地消や食料自給率向上、さらに農村や農業者の間に留まらず、女性の経済活動への参画から、男女共同参画社会の推進への理解を深める。

## 【シンポジウム等の名称】

地方発！シンポジウム「女性と経済」 ～地域を変える女性起業家たち～  
女性の元気が日本経済を元気にする！

【日時】 平成 22 年 11 月 27 日 (土) 午後 1:00～4:00

【場所】 エル・パーク仙台 スタジオホール

【参加者数】 122 人

【プログラム】 (別添チラシ参照)

## 【参加者からの主な意見】

- ・人選がとても良かったと思います。それぞれの個性があり皆さんエネルギーに満ち溢れていました。印象的でした。私も夢をもって生きたいと思いました。
- ・山形弁・宮城弁の出てくるみなさんのお人柄がとても親近感もてて、様々な面から農村、女性、起業について学ぶことができたよかった。
- ・わかりやすく、発表者の人柄が感じられる内容でした。1人1人の長さも、集中してきくのにも適当だったと思います。心地よい気持ちで帰ることができます。みなさんの話で元気やる気が出ました。
- ・4人の方々の生活・仕事・人生・生き方に感激致しました。まわりをまきこむだけの魅力のある方々だと思います。
- ・渋谷さんの「一歩出るとねたまれるが三步出れば心地よい風を感じられる」ということばに感動！！
- ・庄子さんの「バックギア」には入れない(前に進むことが大事)という生き方に共感しました。前進あるのみ、ふたたび、パワーをいただきました。
- ・全体にすばらしいシンポジウムであった。シンポジウムの構成がよかった。
- ・ないものねだりではなく地域の幸や人材・風土などのあるもの生かしをしながら、地域内の経済循環、雇用(働く場)づくりに取り組まれている点。「命をつなぐ」という使命も担っていると感じた。
- ・地域でがんばる女性たちをつなぎ、地域を元気にするという使命をにない、男性も女性もイキイキとくらせる地域づくりをめざすパートナーとして歩んでゆきます。
- ・地域でがんばっている皆さん(点)を線→面へとつなげるべく、それぞれの良さを伝えられる存在になりたい。

- ・このような女性起業の活動が男女共同参画社会の形成につながるきっかけとなるので、多いに広がってくれると良いと思う。

### 【シンポジウム等を通して得た成果（効果）】

(シンポジウム等における特色や写真(1~2枚程度)を含めて掲載して下さい)

・「食」という誰もが関心を持つテーマと、地元のパネリストを招いたことにより、多くの参加者の共感を呼ぶとともに、女性の起業家が事業を拡大し、地元を活性化するにあたっての問題点及び解決策の共有ができ、一人ひとりが、より身近な問題として『女性の経済活動への参画及びその成功が地域社会の経済活性化に貢献し、男女共同参画社会の推進につながる』ことへの理解が深まった。



### 【今後の課題】

(女性の経済活動への参画に関する理解をさらに深めるために、団体として今後取り組むべき課題を掲載して下さい)

□女性の社会参画の実現にむけた、女性自身の経済力と行動力の育成と、意欲的に活動できる環境整備への働きかけ

- ・ワークライフバランスを進めるための社会的インフラ、
- ・女性起業に当って利用しやすい資金、融資制度
- ・就労・経済活動の停滞の解消
- ・女性が長く働き続けられるための、男性・企業の協力・意識改革の促進。
- ・実践をとおした意識づくりのための、成功事例の発信・共有、交流の機会創出。

## 地方発! 「女性と経済」

# ～地域を変える女性起業家たち～

### 女性の元気が日本経済を元気にする!

申込先着順  
参加費無料

開催日: **2010年11月27日(土)**  
13:00~16:30 (受付12:30~)

会場: **エル・パーク仙台 スタジオホール**  
仙台市青葉区一番町4-11-1 141ビル6F

定員: 190名

主催: 内閣府・男女共同参画推進連携会議  
特定非営利活動法人 日本BPW連合会

後援: 宮城県  
財団法人せんだい男女共同参画財団

協力: 農林水産省東北農政局  
社団法人 農山漁村女性・生活活動支援協会

#### 第1部 事例報告 13:00 ~ 15:00

東北を中心に活躍する女性やそれを応援する方による、起業の契機、自然・文化を活かしたふるさと活性化、地域への波及効果、経済的な効果、女性の地位向上や男女共同参画に結びついた点、などの報告と今後の展望と後に続く女性農業者・起業家等へのエールを発表。

#### ●第1部事例報告者 兼 第2部パネリスト

萱場 市子	農家レストラン「もろや」オーナー
渋谷 文枝	農家レストラン「ふみえはらはん」経営
新関 さとみ	さとみの漬物講座企業組合理事長
庄子 知秀	株式会社 藤崎 食品部商品担当係長(バイヤー)

#### 第2部 パネルディスカッション 15:00 ~ 16:30

第1部の事例報告を踏まえ、女性の起業者が事業を拡大し、地元を活性化するに際しての問題点の共有化及び解決策・ノウハウの情報交換など……

コーディネーター

齋藤 京子 (社)農山漁村女性・生活活動支援協会 専務理事

#### ■お申し込み

「BPWシンポジウム参加希望」と明記の上、「氏名」・「連絡先(TEL or FAX or E-mail)」をご記入いただき、下記までE-mail又はFAXでお申し込みください。(当日会場でも受付があります) 託児ご希望の方は事前にご予約願います。

●電話での受付は致しておりません。

#### ■お問い合わせ

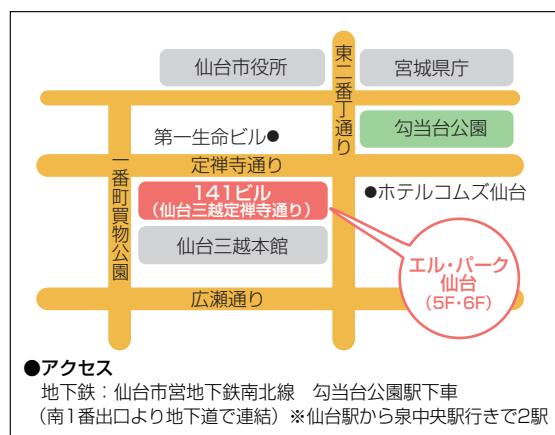
平日/10:00~17:00

2010 APEC WLN関連セミナーin仙台イベント事務局 (株式会社マルト内)

TEL:03-6459-0556 FAX:03-5776-0379

E-mail:wln-sendai@maluto.biz

●取得しました個人情報は、このシンポジウムの受付のみに使用します。







農家レストラン「もろや」オーナー  
**萱場 市子**

1970年頃より、農山漁村のよりよい生活や地域の活性化のために農家の女性達がグループを作り活動をする組織「生活研究グループ」の活動を始め、1980年頃から、野菜の宅配「フレッシュメイト」を開始（現在の「おだまき会」）。2000年、農家レストランをオープンし、こだわり野菜でおいしいランチを提供するほか、

地元デパートとの連携で「もろや弁当」の販売、さらに今年からお節料理も販売。また、仙台市地産地消生産者サポートとして活動するほか、宮城学院女子大学食品栄養学科の学生が運営するキッチンKirshe(キルシェ)と連携し「畑とキャンパスをつなぐ！」をコンセプトとしたメニューの共同開発で、若い女性の食に対する興味を高めるなど、多方面に活躍。

●コメント

信念は、勇気、やる気、根気、元気の4つの「気」。  
 一人で出来ないことも、家族や仲間と共にチャレンジする：勇気。実行に移す：やる気。継続は力なり：根気。自分が元気になれば、家族が元気になり、地元も元気になる：元気。



農家レストラン「ふみえはらはん」経営  
**渋谷 文枝**

宮城県小野田町生まれ、1988年「小野田ふるさとの味研究会」を発足。

1996年、農家レストラン「ふみえはらはん」を開店、農村食文化の女性起業家として、自ら経営する農家レストランにおいて、アイガモ農法による有機米や自家野菜を使用した地域の伝統食を提供するなどスローフードを実践するとともに、農村発の食アメニティを県内外へ積極的に情報発信し、農村女性起業家のモデルとして都市農村交流を通じた地域の活性化に貢献し、県外への波及効果も大いに期待されている。農業・農村の持つ食資源の有効活用を女性ならではの視点でいち早く実践するなど、今後とも彼女に続く人々への模範としての活躍が期待されている。

●コメント

今、マスコミで様々に取り上げられるなど、農村が注目されていますが、その一方で農村の悲痛な話も多く聞こえてきます。そんな農村の実態をお伝えることで、参加者一人ひとりがこれからの農村について、そして毎日の食卓に上る食材について考えるきっかけになればと思っています。



さとみの漬物講座企業組合理事長  
**新関 さとみ**

2010年、内閣府男女共同参画局の平成22年度女性のチャレンジ賞を受賞。3年前に全国商工会議所女性会連合会「第6回女性起業家大賞」審査委員会委員長賞受賞。義母が作った山形の漬物のおいしさに感動し、作り方を学んで農作物直売所で販売。平成15年には、山形県内初の企業組合「さとみの漬物講座企業組合」を

設立。山形の漬物・漬物のたれ・手作り味噌・漬物レシピ本等の販売や作り方講座を中心に、総合サービスの漬物事業を展開しているほか、山形の伝統的食文化を伝える活動にも力を入れている。講座の開催やインターネットによる全国販売に活動範囲を拡大。

●コメント

・女性ならではの感性を活かし女性も経済的に自立しやすい社会になる様に男女共に意識改革を進めるべきだと思う。また、多才な女性が多い中、自らの能力を発揮できる職場を起すことも可能性の一つに入れてがんばってほしい。  
 ・地産地消、伝統の継承は、食べる人作る人をつなぐ事によって実現する。これらの人をつなぐネットワークは必要である。



株式会社藤崎 食品部商品担当係長(バイヤー)  
**庄子 知秀**

1993年入社。食品部グロサリー・和洋酒担当、生鮮食品担当、営業企画部催事企画・商品担当と、入社以来、ほぼ食品に関する仕事に携わる。また今年10月、生鮮食品担当マネージャーとなる。仕事に対するプロ意識は人並みはずれ、厳しいが人情あふれる人柄。多くの新商品の開発に携わり数々の商品が店頭に並んでいる。

開発にあたり、現地に出向くことはもちろん、自分のこだわりは絶対通しきる熱意は製造元でも評判である。

食品部の熱血バイヤーとして上司、部下から信頼されている。

●コメント

高齢者社会が進んでいく中で、ますます食に対する意識が高まっている。特に、健康・美容においては、基本となる食事が重要である。宮城県にはお米をはじめ、新鮮な魚介類、野菜、くだもの、地元牛などなど有名な素材の宝庫だ。買い物客の80%は女性であることから、女性視点での「ものづくり」が今後大きな力となっていこう。

■第2部 パネルディスカッション

コーディネーター

(社)農山漁村女性・生活活動支援協会 専務理事  
 男女共同参画推進連携会議 議員

**齋藤 京子**

農林水産省で女性・就業課長や消費生活課長として農山漁村の女性施策や新規就農施策、食育の推進などに関わった経験を活かし、現在は、農山漁村女性の社会参画、経営参画の促進や消費者との交流などに力を入れている。

●コメント

「農場から食卓まで」の心理的・物理的な距離を縮めることがとても大切です。作った人のことや作られている場所に関心を持ち、海外からの原料で作られた食品ではなく国産の食材が使われている食品に、自ずと手が伸びる消費者が多くなれば、食料自給率も高まります。需要があれば農山村での農業経営も成り立ち若者も農業を仕事に選びます。「広い意味の地産地消」を進める必要があり、そのためには、農業生産と消費の両方を日々実践している女性農業者が「キーパーソン」です。もっと消費者との真剣で楽しい交流が必要と考えています。

